

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話 / Fax 0258-62-2343

E-mail mrissen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 2 年 1 月 20 日 NO. 1 0

見附市役所

庁舎前の冬囲い



間違いに気付かせ「学び」につなげる手立て

師がく指導者 小林 恵子

若い頃、同僚の ALT の顔色が悪いので “You had better go home.” と告げた。すると彼は、私を真顔で見つめ「そうしなかったら何か悪いことが起きるのか？」と尋ねた。「早く帰って休んだ方がいい、と言う意味だ。」と説明すると、それなら “You should go home.” の方が適切な表現だと言われた。“had better〜” は「〜した方がよい」という日本語より強い、忠告や命令、時には威嚇の意味を持つことを初めて知った。

別の学校で、ALT が黒板に ‘yesturday’ と書いたところ、男子生徒が ‘yesterday’ が正しいのではないかと発言した。彼女は「それはアメリカ英語で、私ののはイギリス英語だ。」と議論を始めた。私は “You can find your answer in the dictionary.” と言って、その場をおさめた。授業後、彼女は肩を落として言った。「私は今まで何千回もこの単語を書いてきたのに誰も間違いを指摘してくれなかった！」

学校訪問の際に、廊下や教室に間違っただけの英単語や英作文が、掲示してあるのを目にすると胸が痛む。

言語の習得時には、間違いは付き物である。母語（日本語）を習得させるには、側にいる人が何度でも見本を示し、曖昧な発音や間違っただけの言い回しを直してやり、

きちんと言えたら誉める。これを何年も繰り返すことで、子どもはようやく正しい日本語を話したり書いたりできるようになる。

英語に関しては、母語の日本語とは習得環境が異なり、時間的にも比較にならないくらい少ないため、印象的で効果的な指導が求められるのである。

私の経験では、自分が何かを表現しようとしたときに指摘された間違いは脳裏に刻まれ、修正が定着するようである。但し、自分自身でその間違いを理解し納得した場合に限る。自尊心が傷つき、英語嫌いになる危険性もある。

ある小学校で外国語活動の授業を参観したときのこと。前時の復習をしているとき “What time is it now?” という教師の問いに、男子児童が手を挙げ “Two, one, five.” と元気よく答えた。一瞬言葉につまった教師は、即座に微笑み、“Nice try! みんな、彼が何を言いたかったのかわかる?” と尋ねた。子どもたちは隣同士で話し始め、一人の男子児童が「分かった！きつと “Two fifteen.” と言いたかったんだと思います。」と発言した。間違いを指摘された児童は「ああ、そうか〜 “Two fifteen.” だ。」と頷いた。

巻頭写真に寄せて

見えないものへの心配りを

巻頭写真は「見附市役所庁舎入口の冬囲い」です。傘を差して写したら上部に傘まで写りました。今冬は今のところ雪のない冬です。通勤者には雪のない道路は有り難いですが、冬期間、雪によって生計を立てている人たちは大変でしょう。異常気象とか地球温暖化とか言われていますが…。



スウェーデンの16歳の環境活動家のグレッタさんに言われるまでもなく、庁舎前イルミネーション子どもたちの未来を奪わないよう、私たちは温暖化の原因に真剣に向き合い、一人一人がごみ(CO2)を減らす努力をしなければなりません。さて、木々が雪の重みに耐えられるように、雪つりや囲いをしますが、この囲い等は、強風や雪がなければ不要でしょうか。近年の少雪で、「冬囲いは必要ない」と、しない人が増えているように思えます。異常気象は、百年に一度の大災害を毎年のように起こします。地震、台風、川の氾濫、大雪等の自然災害に限らず、教育に携わる者として、昨今の教育に関する様々な問題を目にして、子どもたち一人一人の内面も含め、常に「見えないものへの心配りをしっかりとやっておかねば」と、強く思います。

コラム 「まなざしで語りかける教師」

◇5月に始まった師がく訪問が、12月5日に終わりました。51人の先生の授業を2回ずつ参観し、102時間の授業を授業者と一緒に学ばせて頂きました。2回目の訪問で、これまで本紙面でお願いをしてきた『笑顔で子どもたちに接する姿』



に多く触れ、感動を頂きました。それも「包み込むまなざし」で子どもに接し、子どもたちが安心して学んでいました。さて、私には「教育は、包み込むまなざしがあって成立する」との信念があります。それは、私が若い頃、吉本均(広島大学)先生の本に学んだことによります。吉本先生は、教育方法学が専門で、学級経営を中心にした著書を数多く表していました。吉本先生の「まなざしの共有をはかれば、子どもは共感的に応答するもの。」という主張に魅せられました。当時、毎日のように出していた学級だよりも、特別活動も載せましたが、国語や算数等の教科指導の様子を、私と子どもたちとの『まなざし』で熱く述べました。当然、管理職から「授業記録の子ども言葉で、分析をする(授業を語る)ように」の指導がありました。◇あれから、長い年月が経ちますが、私には「教師の子どもたちを包み込むまなざしが、信頼関係のある学級経営を生み、確かな学力をはぐくむ授業をつくる」の強い信念があるのです。◇上下6枚の写真の先生方の表情をよく見てください。どの先生も、子どもたちと同じ目線で、包み込むまなざしで語りかけています。子どもたちの表情が、見られないものが多いですが、こちらも呼応するまなざしで、学ぶことが楽しい表情です。具体的に申せば「子どもたちが、自分の考えを担任の先生から、包み込むまなざしで聞いてもらえる、安心感があふれる授業」が行われていました。三学期は、インフルエンザや風邪等に十分に気を付けて、すべての子どもに確かな学力が定着するように、まなざしで語りかける授業をぜひ行ってください。(こ)



<科学教育部>

科学教育部アンケートの報告

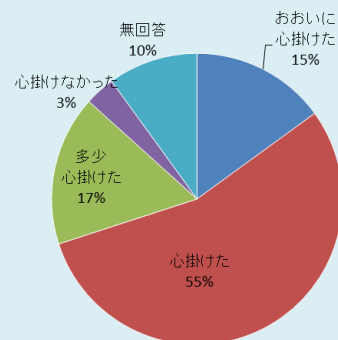
昨年末のお忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。小・中学校、特別支援学校合わせて176名の方からお答えいただきました。アンケートの中で、先生方の現場の困り感、要望等についてご意見をいただくことができました。すべての要望等にお応えすることは難しいのですが、できるものから順次対応していきたいと考えています。

今回は、アンケート結果と要望等に対して、返答できるものを掲載させていただきます。

(1) 問題解決の過程を大切に授業を心掛けたり、取り入れたりしたか。

昨年度よりも肯定的評価が増加していた

⇒ 新学習指導要領では、問題解決の過程、探究の過程で育成する力を明確にして、指導していくことが求められます。新学習指導要領での指導を意識された先生方が増えたと考えます。



(2) 科学教育部の活用状況と分析

①理科・生活科を担当していない先生方が多い

⇒ 科学教育部を「活用していない」と回答が多かったです。活用しなかった理由としては、「必要感がない」ことが一番でした。今まで活用していなかった先生方が、困り感や必要感が出てきたときに、活用しやすい科学教育部であることを目指していきたいと思えます。

②活用したかったが、なかなかできなかった理由として「忙しい」が多い

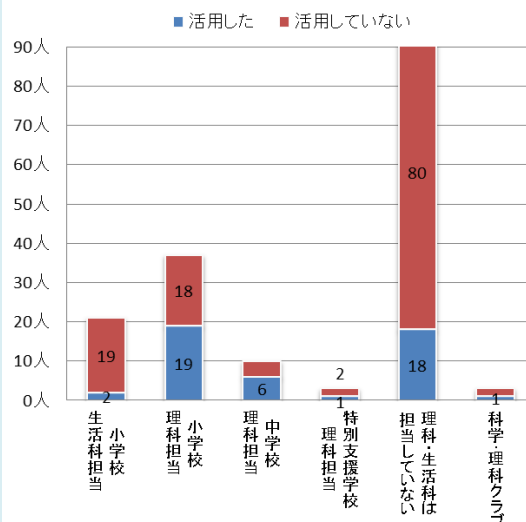
⇒ 今は多くのことが現場に求められ、理科の実験研修に、参加する時間の確保も難しいのが現状なのかと思います。今年度から「単元伝達講習シート」を作成して研修を行っています。研修会に参加された方が、A4版1枚のシートを基に同僚の先生へ、研修の内容を伝えられるものです。少しでも先生方が負担感なく研修できる環境を整えていきたいと考えています。

③研修会での重点について

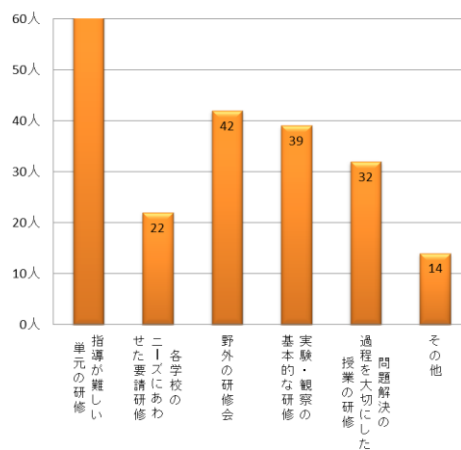
⇒ 実験・観察が多く、教具の準備や安全性に難しさがあるものや、誤概念を生みやすい単元について研修会を取り上げています。

研修会では、実際に実験を体験し、ポイントを確認して、授業に生かせるようにしています。また、野外の研修会の希望も多かったです。来年度は、野外研修会を市内の学校の校庭植物で行うことを計画しています。ぜひご参加ください。

教育センター科学教育部の活用状況



研修会では、何に重点をおいてもらいたいか
(複数回答可)



(3) 科学教育部への質問、疑問、要望等（一部抜粋。2月号でもいくつか紹介します。）

・夏休みの科学研究への事前指導を行ってほしい

⇒ 希望がある学校へ事前指導を行うことは可能です。今年度も過去の科学研究の例を紹介したり、実験をして課題設定を行ったりしました。科学研究では、課題設定を行うことに難しさがあります。課題がしっかりと決まれば、そこから疑問を解決するための手立てを計画し、解決していくことができます。



今町小学校での科学研究指導

・プログラミング教育について

⇒ 小学校で必修化されるプログラミング教育ですが、教材も多岐にわたっています。予算の都合上、科学教育部では準備ができていない状況であり、出前授業を行うことは難しいです。

今回の指導要領改訂では、情報活用能力が中心に据えられていますが、プログラミング教育は、その基礎段階です。そして、本来的にはプログラミングを使って何ができるようになるかが目的です。

WiFi や Bluetooth を使った全国でも先端をいくプログラミング教育に、ドローンを使ったものがあります。実際の授業を参観しましたが、子どもたちは楽しそうに活動をしていました。その授業では、プログラミングで、ドローンを動かすことが目的になっていましたが、今後はドローンの飛行機能と撮影機能を活かしたオリジナルの映像作品を作ってみることなどが目的となってくると思います。これから色々な実践が増えてくると思います。

見附市の現状で行うことが可能な教材をいくつか紹介します。

どれも USB を差し込んでプログラミングができ、実践資料も公開されています。

- ・アーテックから販売されている「スタディーノ」は、光を使ったもので、信号機のようなプログラミングができます。
- ・ナリカから販売されている「Ozobot」は、オンラインコードを組む以外にも、用紙の上にペンで書いたプログラムを読み取ることもできます。
- ・他にも、中学校向けの「ビュートレーサー」などもおススメです。

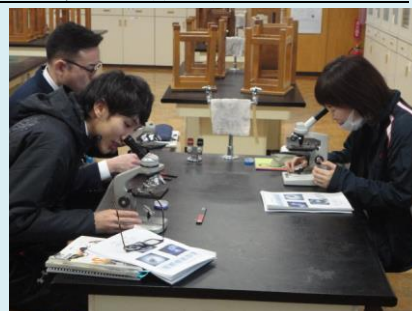
・特別支援教育で、理科的な学習にも生かせるような研修会はありますか。

⇒ 今年度の研修会ではあまりなかったです。科学教育部のフォルダにおもちゃ作りの一覧表を掲載しています。著作権の関係で資料全体を公開することができないのですが、一覧表から作成したいものを選んでいただければ、その部分の資料をお渡しすることができます。ぜひご利用ください。

【¥¥efile¥市教委¥00_市教委¥06_理科教育センター¥00 研修資料公開¥02 おもしろ科学実験】

・理科を担当したことがない人のための、基本の「キ」のような内容の研修があったら受けてみたいです。

⇒ 小学校の初任者がいる学校に「基礎技能研修会」の出前研修を実施しています。初任者以外の希望者にも参加をしていただいています。主に実験の諸注意や、顕微鏡の使い方、方位磁針の直し方、デジタル機器の使い方、そして疑問や要望があった内容についての研修をしました。初任者がいない学校でも、希望があれば伺いますのでご相談ください。



見附小学校での基礎技能研修

